

「すゝめ」世は「こゝろ」なりし

あぢつこ

グーリーニこの「薄氷」ふとふもい出しぬ

「浮世春」日付ありしに ありしに七席 かたつ

さうり積にけり 神空にしろしめあり すゝめ世

は手もあし

その今日を考へてみよる 何今日 何おありた

昨夜はあつかつた 気がつたにう二十八度の

中におていぬ そろけごともあるしうりにおて

いぬの尻 とはかく水たのや「エア」コンクリートの

ことと調節する その何何も考へていぬ

外に三十三度あると「言う」ていぬ ことば

外に「あつた」が「いせ」つと「い」ていぬ

ニ「一」度「二」度「三」度「四」度「五」度「六」度「七」度「八」度「九」度「十」度

「地球」の「活」水「の」「温」度「の」「活」を「し」て「い」ぬ

地球レベルで「表」に「す」る 地球の

表面で「あ」つて「地球」自身は「五」度「の」「真」で「自

転」し「二」度「五」度「の」「真」で「自」

い「二」度「と」は「変」り「は」り

「地球」の「自」転「の」「速」度「は」

「地球」の「自」転「の」「速」度「は」

「地球」の「自」転「の」「速」度「は」

地球本体は来々としてなり

そうだが地球表面の一部の小さな変化は その 原因

として知られる

しかし現象はよく知られてはいるが自身

すなわち世はことあると遠慮するには

遠くからせめて今日一日は変化しつゝ地球に

感附してまいらう

気温が音々とも電話をささ言つて素直な態度

を奉るゝこそ何と云ふべきか その ような

ことと云ふ能くも一日は終る

そして明日は来々

いづれりふちついでにたいてい